

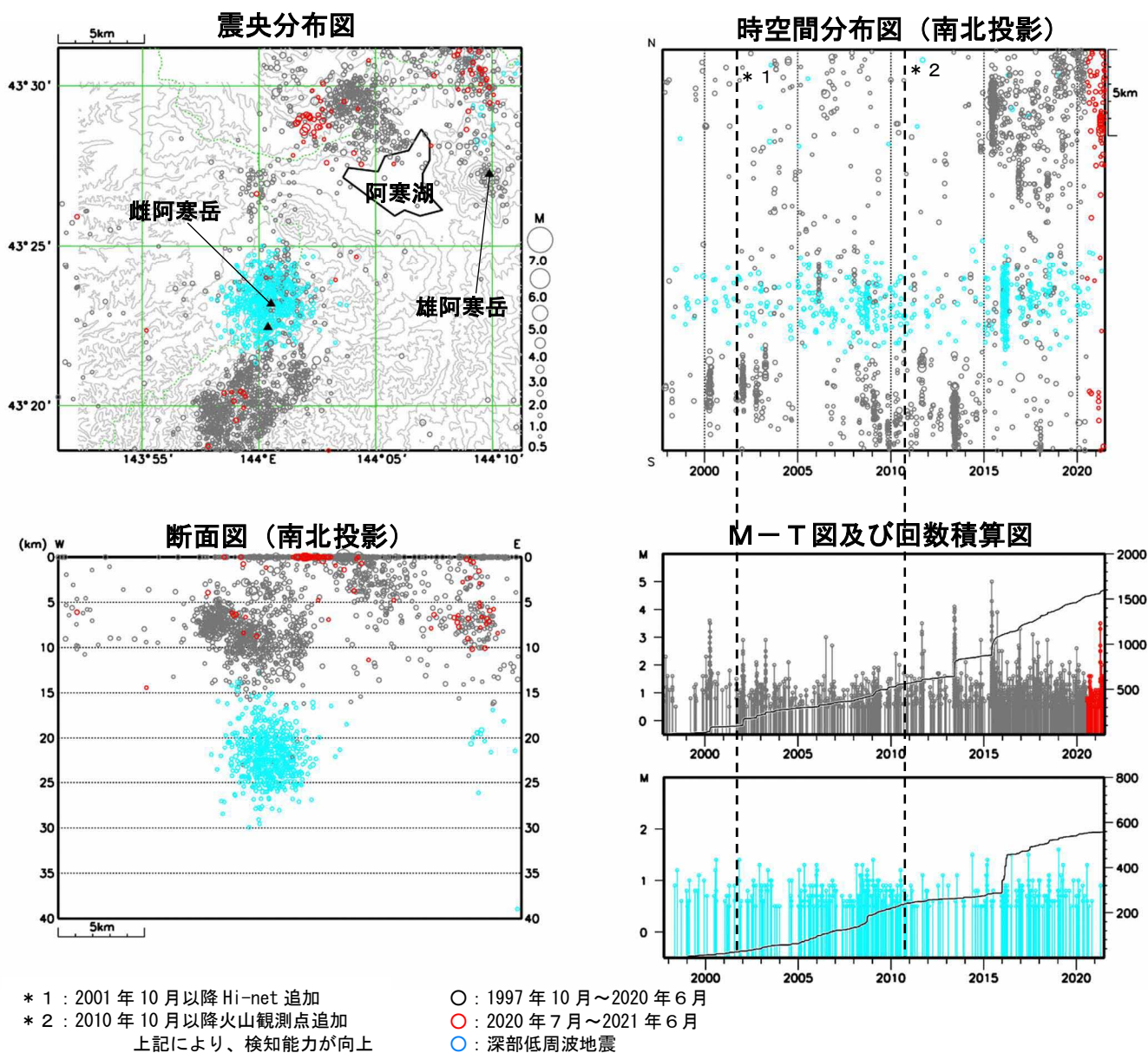
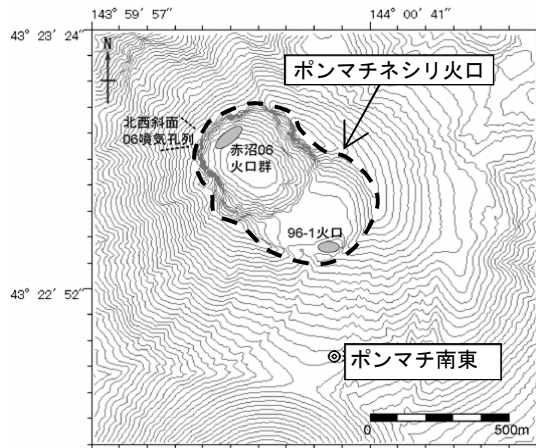


図15 雌阿寒岳 広域地震観測網による山体周辺の地震活動

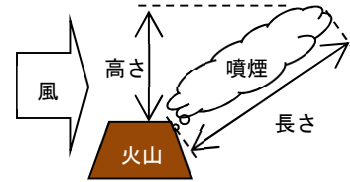
（1997年10月1日～2021年7月、マグニチュード ≥ 0.5 、深さ30km以浅）

2020年9月以降の震源は、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で求められています。

2020年4月18日から10月23日までの地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

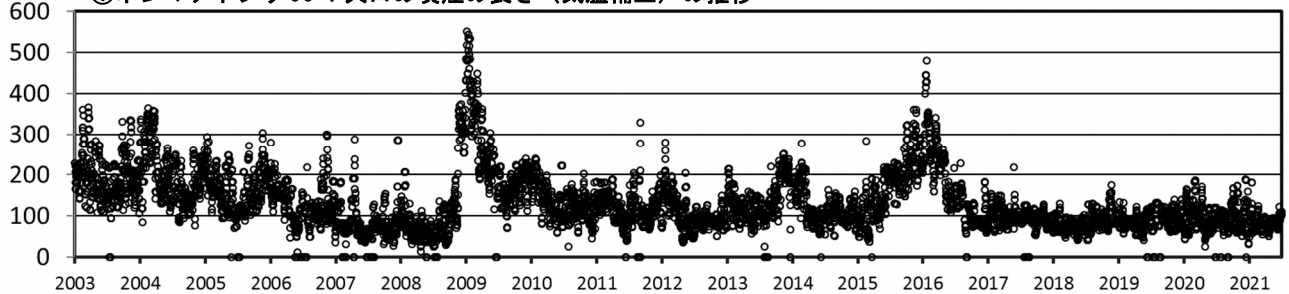


観測点配置図



噴煙の長さ
[m]

①ボンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の長さ（気温補正）の推移



②ボンマチ南東観測点の全磁力値変化

[年]

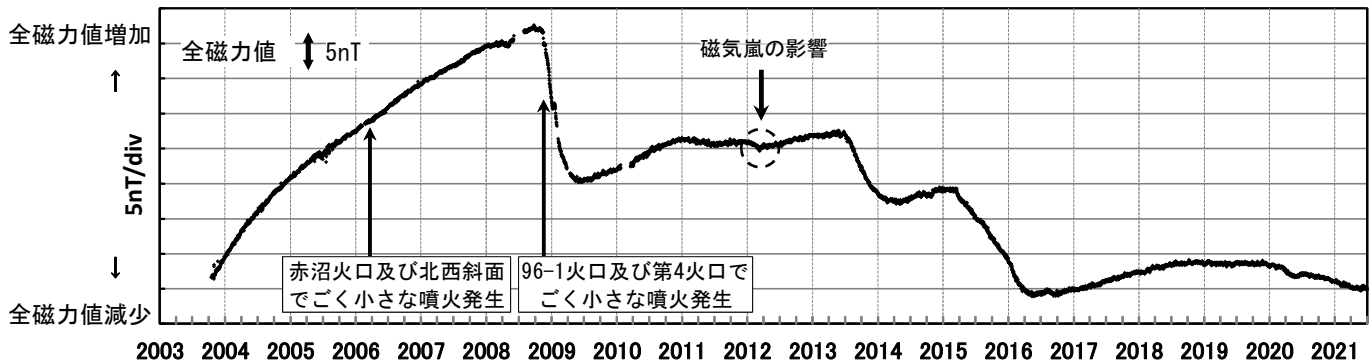


図16 雌阿寒岳 ポンマチネシリ96-1火口の噴煙の長さ（気温補正）と全磁力の比較及び全磁力観測点配置図

[年]

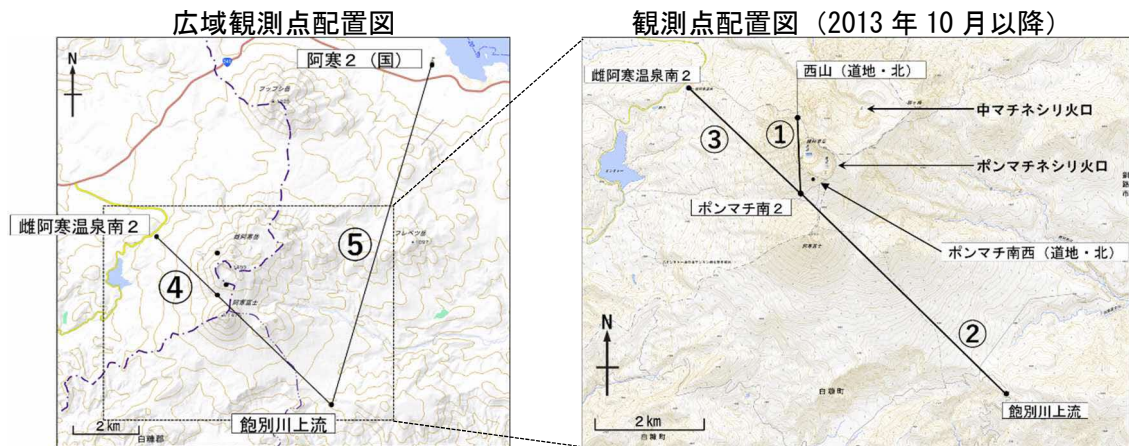
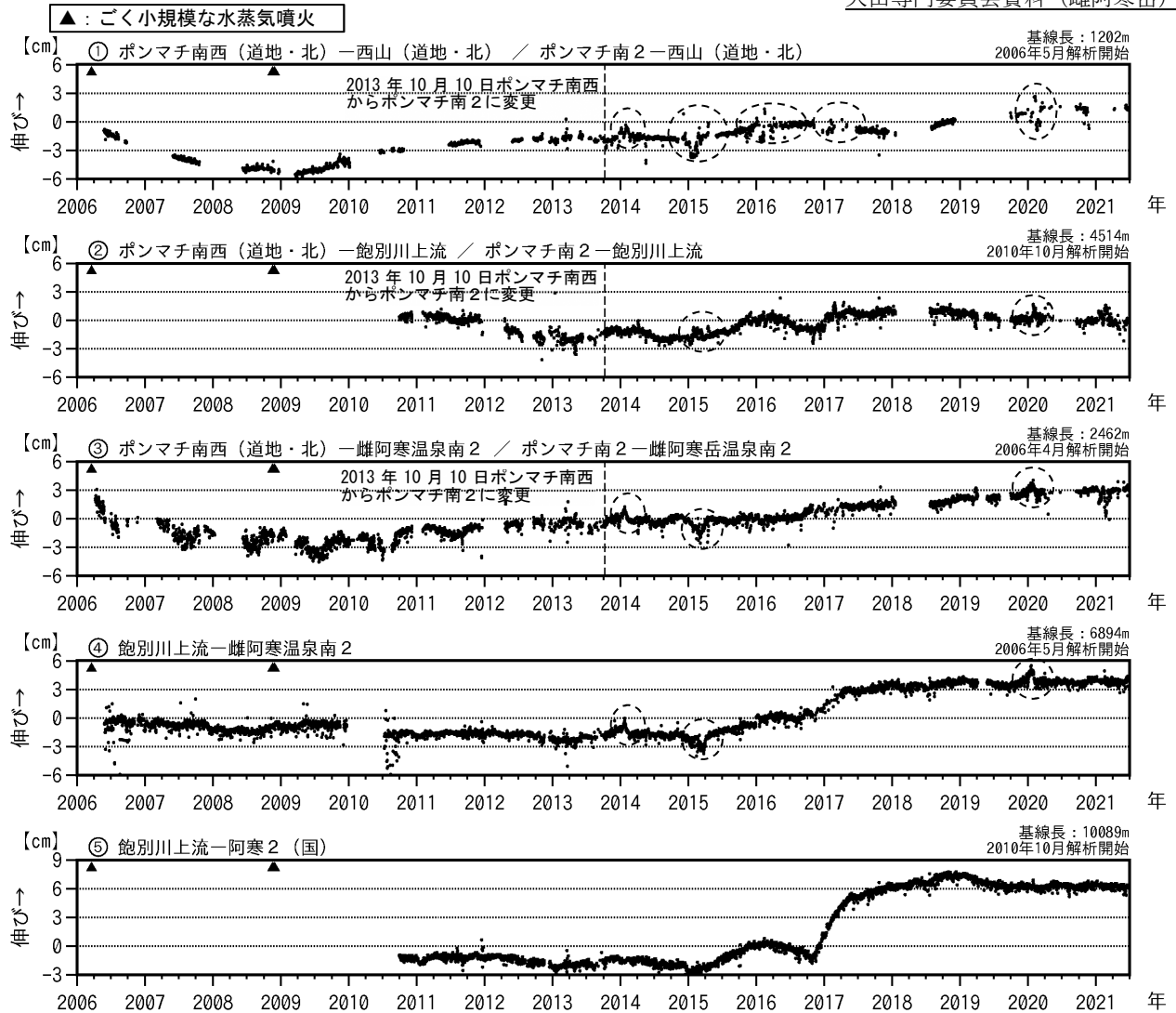
（①：2003年1月1日～2021年6月30日、②：2003年10月16日～2021年6月30日）

①の噴煙の長さは、火山活動に関わらず、気温の影響を受けて気温が低い時に長く、気温が高い時に短く観測される傾向があるため、気温の影響が小さくなるよう補正した値を用いています。

②のグラフには、ボンマチ南東観測点と女満別観測施設との全磁力差を用いています。

空白部分は欠測期間を示します。

- ・2016年5月以降、96-1火口の噴煙量は低下した状態が続いています。
- ・ボンマチ南東の全磁力値は、2018年8月頃から概ね横ばいで推移していましたが、2020年1月以降わずかに減少しています。



(国)：国土地理院 (北)：北海道大学
(道地)：地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所
GNSS 基線①～⑤は観測点配置図中の①～⑤に対応

図17 雌阿寒岳 GNSS連続観測による基線長変化（2006年4月～2021年6月）及び観測点配置図
基線グラフの空白部分は欠測を示します。
破線円の変動は凍上や積雪の影響による変化を示します。
2010年10月及び2016年1月に解析方法を変更しています。

- ・ 2016年10月頃から観測されていた、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動は2019年夏頃から停滞しています。

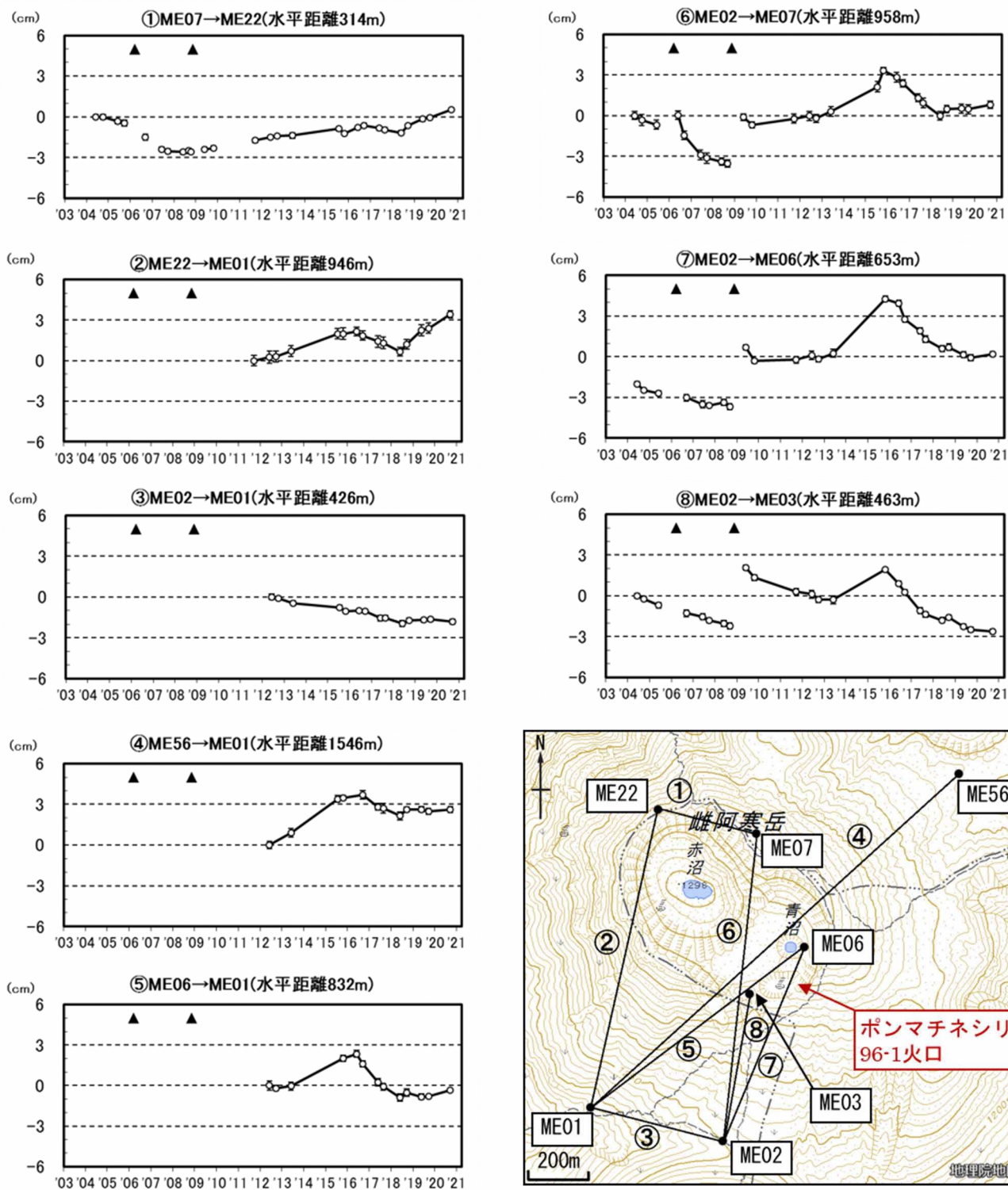


図18 雌阿寒岳 GNSS繰り返し観測によるポンマチネシリ火口付近の水平距離変化及び観測点配置図
(2006年4月～2020年10月)

グラフ①～⑧は観測点配置図の基線①～⑧に対応しています。

図中の▲は2006年3月及び2008年11月のごく小規模な水蒸気噴火を示します。

- ・ 赤沼火口付近のグラフ①②では、2018年頃から伸びの変化がみられます。
- ・ 96-1火口付近のグラフ③～⑥で2016年からみられていた縮みの変化は、2018年頃から停滞しています。

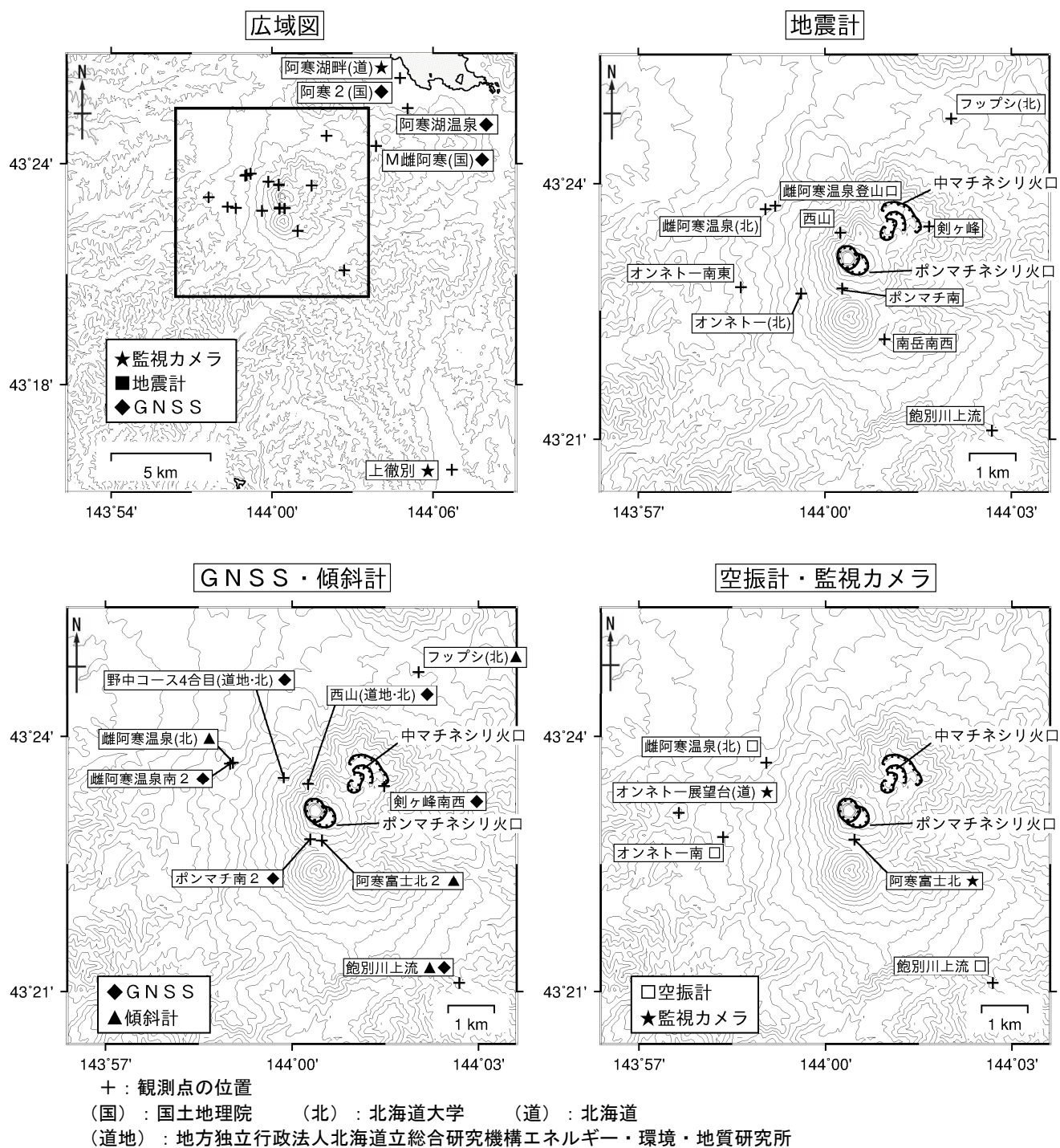


図19 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の太枠線で示した領域を拡大したものです。